

令和 4 年度 県立太田第一高等学校自己評価表〔定時制課程〕

目指す学校像		グローバルな課題の解決に挑み、持続可能な社会づくりに貢献する起業家となる基礎を育む学校								
昨年度の成果と課題			重点項目		重点目標		達成状況			
・新型コロナウイルス感染拡大に伴い、臨時休業中があったが、生徒・保護者との連絡を密に行うとともに、学習については、登校日の設定、課題などで対応し、学びの保障はスムーズに実践できた一方で、多くの学校行事を中止、規模縮小、内容変更することになった。 ・生徒の興味・関心を高める授業の実施、生徒の状況に合わせた学校行事の実施、日頃の生徒への声かけや毎日の登校指導・教室巡回指導、生徒面談・保護者面談の実施、生徒情報の共有等、専任者全員であったる生徒指導の成果もあり、生徒は落ち着いた学校生活を送ることができた。今後も、生徒の意欲を喚起する授業・学校行事の工夫、開発的・予防的な生徒指導の実施により、生徒の前向きな行動を引き出し、重大な生徒指導案件を未然に防いでいく。			(1)	他者の気持ちになって考え行動することができる生徒の割合	・教育活動全体を通じて道徳教育を行うことにより、「他の人の気持ちになって考え行動することができる」と答える生徒の割合 80%を目指す。		B			
			(2)	自分の思いや考えを説明することができる生徒の割合	・授業や学校行事において、話し合いや発表の機会を設け、「自分の思いや考えを説明することができる」と答える生徒の割合 80%を目指す。		C			
			(3)	社会のルールやマナーを守っている生徒の割合	・HR 活動や各種講話、学校行事において規範意識を高める機会を設け、「社会のルールやマナーを守っている」と答える生徒の割合 80%を目指す。		B			
				学校行事への参加率	・教育活動全体での意識的な協働作業を通して、協調性や責任感を醸成することにより、学校行事への出席率 80%を目指す。		B			
			(4)	就職希望生徒の進路決定率	・効果的な個人面談やキャリア・カウンセリング（「キャリア・サポート」の活用）を行うことにより、就職希望生徒の進路決定率 100%を目指す。		A			
			(5)	授業における生徒のタブレット活用率	・授業において生徒がタブレットを活用する場面を設けることにより、授業において「タブレットを有効活用できた」と答える 1・2 年生生徒の割合 80%を目指す。		B			
			(6)	平均超過勤務時間数・休暇取得日数	・校務において ICT を積極的に活用することにより、一か月平均超過勤務時間 20 時間以内を目指す。また、休暇取得日数を平均 10 日以上にする。		A			
			(7)	学校の様子が伝わっていると考える家庭の割合	・保護者面談の実施・定時制だよりの発行・Web ページの更新により、「学校の様子が家庭によく伝わっている」と答える保護者の割合 80%を目指す。		A			
三つの方針			具体的目標			評価		次年度（学期）への主な課題		
「三つの方針」（スクール・ポリシー）	「育成を目指す資質・能力に関する方針」（グラデュエーション・ポリシー）		（長期的目標） ○グローバルな課題の解決に挑み、持続可能な社会づくりに貢献する意欲のある生徒を育成する。 ○誠実で主体的、協調的に行動できる生徒を育成する。			C	B	授業や学校行事等で、グローバルな視野を広げたり、主体的・協調的に活動できる場を設ける。		
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」（カリキュラム・ポリシー）		（中期的目標） ○思いやりの心を育成し、生徒が他者の気持ちになって考え行動することができるようにする。 ○生徒が発表する機会を確保し、生徒が知識を基に考え判断し表現することができるようにする。 ○自律心・責任感を育成し、生徒が集団の中で協調的に行動することができるようにする。 ○自己理解・自己管理能力・キャリアプランニング能力を育成し、社会で活躍することができるようにする。			B		行事や総探にキャリア教育に関する活動を積極的に取り入れ、生徒のキャリアプランニング能力の育成を図る。		
	「入学者の受入れに関する方針」（アドミッション・ポリシー）		（短期的目標） ○学校や社会の規範を守り、さまざまな年齢の人と協力して日常生活を送ることができる生徒を募集する。（安定した生活の継続、幅広い年代の方との学び合い） ○ものごとに粘り強く取り組むことのできる生徒を募集する。（4 年間の通学、仕事との両立） ○授業、学校行事、生徒会活動、部活動などに積極的に取り組む意欲のある生徒を募集する。（主体的・積極的な学び）			B		引き続き、中学校訪問や学校説明会等の広報活動を通して、中学生や保護者にアドミッションポリシーを周知し、志願者増加につなげる。		
評価項目		具体的目標		具体的方策			評価		次年度（学期）への主な課題	
教科	国語	国語への興味・関心、基礎学力、コミュニケーション能力を高め、日常生活に生かすことができるようにする。		(1) 漢字を日常生活で活用することができるよう、漢字の読み・書き取りの反復練習と語句の意味調べを行う。			B	B	調べ学習だけでなく、作文等でも ICT を活用できるようにさせるため、指導を工夫する。また、自分の考えをまとめ発表させる場面を、さらに多く設定したい。	
				(2) 表現の知識・方法を身に付けることができるよう、ICT も活用して作文指導を行う。			C			
				(3) コミュニケーション能力を高めることができるよう、考え表現する活動を行う。			B			

別紙様式 2 (高)

評価項目	具体的目標		具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教科	地歴公民	地歴公民への興味・関心を高め、人生をより豊かにするような実生活でも活用できる知識や考え方を身に付けることができるようにする。	(1) 生徒の興味・関心を高めるため、学習内容を日常生活と結び付けられるように教材を作成し授業を行う。	B	B	ICTを活用して、生徒自らが調べたり、考えたり。表現したりする授業を増やし、そのための学習教材を工夫する。
			(2) 日常生活でも活用できる知識・考え方を身に付けられるように、教材を作成し授業を行う。	B		
			(3) 学習内容をより理解できるように、ICTを活用して写真や映像、地図等を共有し教材として活用する。	B		
	数学	基本事項の理解に向け、数学への興味・関心が高まる授業に取り組むとともに、生徒の実態に即した教材を選択実践する。	(1) 定義・定理などを平易な表現で提示する。	A	A	引き続き、ICTを有効的に活用しながらプリントと教材研究を充実させる。
			(2) 解ける喜びを体験できるように、基本問題を準備し授業を行う。	A		
			(3) 理解の程度に応じてICTを含む作業を取り入れた授業を行う	B		
	理科	自然界の事象に関する興味・関心を高め、身の回りの現象や事物について科学的に理解することができるようにする。	(1) 生徒の興味・関心が高まるよう、身の回りの現象や事物を多く取り入れた授業を行う。	B	B	授業プリントを改善し、ICT機器が更に活用できるように工夫する。また、探究的な実験・実習の教材開発を充実する。
			(2) 理解が深まるように、図、写真、動画、ICT機器などの教材を活用する。	A		
			(3) 生徒が授業に主体的に取り組むことができるように、実験、実習を多く取り入れる。	B		
	保健体育	保健の知識を身に付け、生活習慣に生かすとともに、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにする。	(1) 保健の授業では、ICT等を活用し生活に結びつけられるように、できる限り身近な話題を取り上げる。	B	B	コロナ禍のため集団討論や、意見交換をする場面が少なかったため、次年度は取り入れていきたい。
			(2) 体育の授業では、ICTを活用し運動技能を高めて競技が楽しくなることを体験するような活動を取り入れる。	B		
			(3) コミュニケーション能力を高めることができるよう、授業に集団的活動を取り入れる。	B		
	芸術	表現力の向上、鑑賞の基礎的能力の伸展に向け、創造の喜びを実感する授業に取り組む。	(1) 表現力の基礎を向上させることができるように、個別指導を丹念に行う。			本年度は在籍者なしのため未実施
			(2) 一人一人の作品の良さを感じ取ることができるように、お互いの作品を鑑賞する場面を授業に設定する。			
			(3) 生徒が意欲を持って制作活動ができるように、興味を持つような題材を設定するとともに、制作の達成感を味わうことができるように、作品の完成に向け、個別に指導を行う。			
	外国語	英語を聞き、話し、読み、書く基礎的な能力を身に付けるとともに、英語を理解し、英語で表現しようとする能力を身につける。	(1) 自力で英文の内容を読みとろうとする積極的な態度を身に付けるため、ICTを活用した授業を展開する。	A	A	ALTとのチームティーチングの実施回数を増やす。また、授業時間内での生徒同士の協働時間を増やす。
			(2) 読解に必要な文法事項を理解できるように、動画を利用しながら文法事項を説明する。	A		
			(3) 基本的な日常会話表現使うことができるように、授業でペアワークを活用する。	C		
	家庭	基礎的な知識・技術を身に付け、生活の課題を見出し、改善しようとすることができるようにする。	(1) 生活に必要な知識や技術を習得することができるように、個人差に配慮した指導法を工夫する。	C	B	・生徒が意欲的に授業に取り組めるような指導の工夫 ・ICTを生かした授業方法の研究 ・観点別評価の研究
			(2) 生徒が授業内容を理解することができるように、ワークシートを作成し授業で活用する。	B		
			(3) 身近な生活の中に課題を見つけ、改善方法を考えることができるように、ICTを活用した画像や動画、新聞記事を教材に取り入れる。	B		
	情報	情報及び情報技術を活用するための知識と技術を習得するとともに、社会の中での役割や影響を理解することができるようにする。	(1) 生徒が文書作成、表計算をすることができるようになるために、ローマ字入力をする活動を取り入れる。			本年度は在籍者なしのため未実施
			(2) ICTを活用して必要な情報を収集する活動を行う。			
			(3) 簡単な著作権侵害の具体例を基に、情報化社会に参加する上でのモラルについて考える活動を設定する。			
教務	1 授業時数・行事予定の管理により、授業の確保、行事の円滑な運営を行う。		(1) 年間授業時数の確保に向けて、週毎に時間割の検討・調整を行う。	A	B	次年度も志願者の増加に向けて、積極的な広報活動に努める。また、定時制の学校行事のあり方について、実施目的を踏まえて、時期・方法について検討する。
			(2) 学校行事等の円滑な運営を円滑化に向けて、事前の打ち合わせ・調整・手続きを十分に行う。	B		
	2 ICT活用法等の改善により、校務を効率化する。		(1) アンケートの実施・集計に係るICTの活用方法を改善する。	B		
			(2) 校務支援システムの円滑な運用に向けて準備を行う。	B		
	3 多様な媒体での広報により、家庭や地域に学校の様子が伝わるようにする。		(1) 定時制だよりの定期的な発行・Webページのこまめな更新を行う。	B		
			(2) 成人特例選抜の案内を近隣市町村の広報紙を通じて行う。	A		

別紙様式 2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
生徒指導	1 教職員間・保護者との報告連絡相談を密に行い、生徒が基本的な生活習慣を身に付けることができるようにする。	(1) 専任者が共通理解をもって指導するため、生徒の情報を専任会等で共有する。	B	毎日の立哨指導で生徒をよく観察し、コミュニケーションを充実させ、問題行動の未然防止を図る。	
		(2) 挨拶やマナーアップを個別に指導するため、毎日登校時に全職員で立哨指導を行う。	C		
		(3) 家庭との、遅刻・欠席・早退などの連絡報告を徹底する。	B		
	2 学校行事等に規範意識を高める機会を設け、学校生活・社会生活における規律を守ることができるようにする。	(1) スマートフォン・タブレットの適切な使用を促すため、スマホの家庭ルール作り・集会での指導を行う。	B		
		(2) 交通講話・登下校における自転車・原付バイク・自家用車の使用状況確認、集会での指導を行う。	B		
		(3) 薬物乱用防止に向け、薬物に関する講話や集会での指導を行う。	B		
特別活動	生徒が行事運営に参加する機会を設けることにより、生徒が学校行事に出席することができるようにする。	(1) 集会・学校行事において、行事運営ができるように、生徒に役割を与える。	B	B	教員間の連絡を密にして、生徒一人一人の実情を理解しながら、よりよい行事運営が行えるようにする。
		(2) 定通芸術展・定通体育大会等を学習や生活の成果を発表する場とできるよう、授業やHRで指導を行う。	B		
		(3) 「キャリア・パスポート」を活用し、生徒が自己の活動を振り返り、新たな目標や課題について考える時間を設ける。	B		
進路指導	キャリア・カウンセリング等を行うことにより生徒が希望する進路を実現できるようにする。	(1) 自己理解・自己管理能力・キャリア・プランニング能力の育成に向けて、キャリア・カウンセリング(「キャリア・パスポート」の活用)を行う。	C	B	進路に関わる外部講師の講演や学校外活動を通して、自分を見つめ直し、進路を考える機会を促す。
		(2) 生徒が体験から進路を考える機会とするため、アルバイトや職場見学・オープンキャンパス参加を促す。	B		
		(3) 就職試験・入学試験に向けて、学習相談・出願指導・面接指導・情報提供を個別に行う。	B		
保健厚生	保健関係行事や相談等を行うことにより、生徒が自分の心身の健康を意識して生活することができるようにする。	(1) 個別に健康相談・栄養指導を行い、生徒が自分で健康を管理する方法を指導する。	B	B	健康診断事後指導、アンケートの実施、保健だよりの発行を通して、引き続き基本的な生活習慣の確立を働きかけていきたい。
		(2) 健康診断事後指導において、生徒が自分で健康を管理する機会を家庭で設けるよう、保護者に依頼する。	B		
		(3) 悩みがある生徒に、希望に応じて、悩みの解消に向けて教育相談の実施・専門機関との連携を行う。	B		
		(4) 新型コロナウイルス感染防止に向けて、校舎の消毒を行うとともに、手洗い・うがい・手指消毒・検温の励行を指導する。	B		
第1学年	定時制で学ぶための、生活習慣や学び方を身に付けることができるようにする	(1) 他の人のことを理解することができるようにするため、HRや「道徳」での指導・面談を行う。			本年度は在籍者なし
		(2) 学校・社会のルール・マナーを理解することができるようにするため、登校指導での声かけ・授業・HRにおける指導・面談を行う。			
		(3) 他の人と一緒に活動することに喜びを感じることができるようにするため、キャリア・パスポートを活用した面談・声かけを行う。			
		(4) 自分を俯瞰的に見つめることができるようにするため、キャリア・パスポートを活用したキャリア・カウンセリングを行う。			
第2学年	基本的な生活習慣を身に付けるとともに、級友や家族の気持ちになって考え行動することができるようにする。	(1) 級友や家族の気持ちを考え行動することができるようにするため、HRでの指導・面談を行う。	B	B	他者の気持ちを考えて行動できるようにさせるため、HRでの指導・面談、授業や登校指導での声かけを、さらに充実させたい。
		(2) 学校・社会のルール・マナーの意味を理解し行動することができるようにするため、登校指導での声かけ・授業・HRにおける指導・面談を行う。	A		
		(3) 集団の中で自分の役割の意味を理解し行動することができるようにするため、キャリア・パスポートを活用して面談・声かけを行う。	B		
		(4) 級友や家族の思い・考えを受けとめ、自分に何ができるかを考えることができるようにするため、キャリア・パスポートを活用したキャリア・カウンセリングを行う。	C		
第3学年	目標をもって生活するとともに、自分の属する集団のことを考え行動することができるようにする。	(1) 学校や身の回りの人の気持ちを考えて行動することができるようにするため、HRでの指導・面談を行う。	B	B	集団に溶け込めない生徒がいたので、生活、授業の両面から来年度のケアを考えていきたい。
		(2) 社会のルール・マナーの意味を自分で考えて行動することができるようにするため、登校指導での声かけ・授業・HRにおける指導・面談を行う。	A		
		(3) 集団の中での自分の役割や意味を、自ら考えて行動することができるようにするため、キャリア・パスポート等を活用した面談・声かけを行う。	B		
		(4) 学校や自分の属する集団に思い・考えをもち、自分に何ができるかを考えることができるようにするため、キャリア・パスポート等を活用したキャリア・カウンセリングを行う。	B		

別紙様式 2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
第 4 学 年	将来への目標をもって生活するとともに、社会的に自立することができるようにする。	(1) 社会や地域の人の気持ちを考え行動することができるようにするため、HRでの指導、面談を行う。	B	B	TPOに応じた言動ができ、責任感のある大人になる自覚を促す指導を行う。卒業後の進路目標をもって、その実現のために具体的な準備を促す。
		(2) 学校・社会のことを考え規律ある行動をすることができるようにするため、登校指導での声かけ・授業・HRにおける指導・面談を行う。	C		
		(3) 集団の中で自分の役割を果たすことに喜びを感じることができるようにするため、キャリア・サポートを活用した面談・声かけを行う。	B		
		(4) 社会・地域への思い・考えをもち、自分に何ができるかを考えることができるようにするため、キャリア・サポートを活用したキャリア・カウンセリングを行う。	B		

※ 評価規準

A：大変よくできた（達成度 100～80％） B：よくできた（達成度 80～60％） C：普通（達成度 60～40％）

D：あまりできなかった（達成度 40～20％） E：全くできなかった（達成度 20～0％）